

## 資料

# 2021年の福岡県感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況

中村麻子・上田紗織・小林孝行・芦塚由紀

2021年に感染症発生動向調査事業において搬入された検体は、10疾病114件であった。疾病別の検体数は感染性胃腸炎が最も多く、次いで咽頭結膜熱が多かった。採取された114件のうち、ウイルスが検出された検体は43件であった。感染性胃腸炎の検体からはノロウイルスGⅡ.4が、咽頭結膜熱の検体からはライノウイルスが最も多く検出された。

[キーワード：感染症発生動向調査、ノロウイルスGⅡ.4、ライノウイルス]

## 1 はじめに

福岡県における感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（感染症法）に基づき「感染症発生動向調査事業実施要綱」に従って実施されている。当所が担当する定点医療機関は、インフルエンザ定点が2定点、小児科定点が6定点、眼科定点が1定点、基幹定点が9定点である。当所はこれらの定点医療機関から搬入された検体についてウイルス検査を行っている。今回は2021年のウイルス検出状況について概要を報告する。

## 2 検体及び病原体の検出方法

2021年に福岡県（福岡市及び北九州市を除く）で採取された検体は10疾病114件であり、検体数は2020年の165件と比べて減少した。

疾病別及び検体種別検体数を表1に示す。2021年の疾病別の検体数は感染性胃腸炎が最も多く、次いで咽頭結膜熱が多かった。検体種別では咽頭ぬぐい液が最も多く、次いで糞便が多かった。2021年は2020年と比べて、インフルエンザ、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎、流行性耳下腺炎、突発性発しん及び水痘の検体は減少し、手足口病、RSウイルス感染症の検体が増加した。伝染性紅斑は同数であり、急性脳炎、流行性角結膜炎及びその他疾患の検体は搬入されなかった。

病原体検出方法は主に国立感染症研究所の病原体検出マニュアルに準拠し、各種ウイルスを対象としたPCR法による特異遺伝子の検出により行った。

## 3 疾病別病原体検出状況

2021年1-12月に採取された114件について、ウイルス検出を行った結果を表2に示す。ウイルスが検出された検体は43件であった。このうち、複数のウイルスが検出さ

れた検体は5件であった。

インフルエンザの検体からはライノウイルスが1件検出された。咽頭結膜熱の検体からは、ライノウイルスが2件、アデノウイルス1型が1件、アデノウイルス5型が1件、RSウイルスが1件検出された。感染性胃腸炎の検体からは、ノロウイルスGⅡ.4が3件と最も多く検出され、次いで、アストロウイルス、エコーウイルス6型、コクサッキーウイルスA6型がそれぞれ2件検出された。手足口病の検体からは、コクサッキーウイルスA6型が12件と最も多く検出され、コクサッキーウイルスA6型及び単純ヘルペスウイルス1型の両方が3件検出された。また、コクサッキーウイルスA16型が2件、水痘・帯状疱疹ウイルスが1件検出された。ヘルパンギーナの検体からは、コクサッキーウイルスA6型及び単純ヘルペスウイルス1型の両方が1件検出された。RSウイルス感染症の検体からは、RSウイルスが3件、ライノウイルスが1件検出された。突発性発しんの検体からは、アデノウイルス2型が1件検出された。伝染性紅斑の検体からは単純ヘルペスウイルス1型が1件検出された。無菌性髄膜炎及び水痘の検体からはウイルスは検出されなかった。

2021年は、2020年から引き続き新型コロナウイルス感染症の流行により、採取された検体数が大幅に減少し、2019年の27%（114/416）、2020年の69%（114/165）となった。検体数の減少に伴いウイルスの検出数も減少したが、手足口病のウイルス検出状況は、全国的な傾向と同様にコクサッキーウイルスA6型が多く検出されていた<sup>2)</sup>。また、2021年の病原体検査のウイルス検出率は38%（43/114）で、前年の47%（77/165）に比べて減少した。

## 文献

1) 福岡県結核・感染症発生動向調査事業資料集令和3年、令和4年3月。

2) 病原微生物検出情報

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>)

表1 疾病別及び検体種別検体数\*

疾病名	2020年 検体数	2021年 搬入				
		検体数	検体種別**			
			FC	NP	SF	SL
インフルエンザ	35 (31)	7 (1)		7 (1)		
咽頭結膜熱	27 (13)	24 (5)		24 (5)		
感染性胃腸炎	44 (17)	29 (12)	29 (12)			
手足口病	8 (1)	21 (18)	4 (4)	14 (11)		3 (3)
ヘルパンギーナ	14 (6)	4 (1)		4 (1)		
急性脳炎	0 (0)	0 (0)				
無菌性髄膜炎	12 (1)	6 (0)	2 (0)		4 (0)	
流行性角結膜炎	0 (0)	0 (0)				
流行性耳下腺炎	2 (0)	0 (0)				
RSウイルス感染症	9 (2)	16 (4)		16 (4)		
突発性発しん	5 (3)	1 (1)		1 (1)		
水痘	8 (3)	5 (0)				5 (0)
伝染性紅斑	1 (0)	1 (1)		1 (1)		
その他の疾患	0 (0)	0 (0)				
計	165 (77)	114 (43)	35 (16)	67 (24)	4 (0)	8 (3)

\* ( )内は陽性検体数

\*\* FC:糞便, NP:咽頭ぬぐい液, SF:髄液, SL:皮膚病巣

表2 2021年における福岡県\*の感染症発生動向調査結果

疾病名	搬入月	検出ウイルス	検出数	検体種別**/検出数
インフルエンザ	11, 12月	ライノウイルス	1件	NP/1
咽頭結膜熱	1~3, 5, 7, 9, 11月	ライノウイルス	2件	NP/2
		アデノウイルス1型	1件	NP/1
		アデノウイルス5型	1件	NP/1
		RSウイルス	1件	NP/1
感染性胃腸炎	1~3, 5, 7, 9~12月	ノロウイルスGⅡ.4	3件	FC/3
		アストロウイルス	2件	FC/2
		エコーウイルス6型	2件	FC/2
		コクサッキーウイルスA6型	2件	FC/2
		サポウイルス	1件	FC/1
		ライノウイルス	1件	FC/1
		ノロウイルスGⅡ+コクサッキーウイルスA16型	1件	FC/1
手足口病	8~10, 12月	コクサッキーウイルスA6型	12件	NP/8, FC/3, SL/1
		コクサッキーウイルスA6型+単純ヘルペスウイルス1型	3件	NP/1, FC/1, SL/1
		コクサッキーウイルスA16型	2件	NP/2
		水痘・帯状疱疹ウイルス	1件	SL/1
ヘルパンギーナ	7, 10月	コクサッキーウイルスA6型+単純ヘルペスウイルス1型	1件	NP/1
無菌性髄膜炎	4, 6, 11, 12月			
RSウイルス感染症	2, 4, 5, 7, 9, 11月	RSウイルス	3件	NP/3
		ライノウイルス	1件	NP/1
突発性発しん	7月	アデノウイルス2型	1件	NP/1
伝染性紅斑	3月	単純ヘルペスウイルス1型	1件	NP/1
水痘	3, 5, 9月			
			計	43件

\*福岡市及び北九州市を除いた福岡県内の市町村

\*\* FC:糞便, NP:咽頭ぬぐい液, SF:髄液, SL:皮膚病巣